

口頭③

ニーズに応じた商品選び ～薬剤師と栄養士の連携を通じて～

ミキ調剤薬局
○土屋 依央里
ヘルスケア事業部
○辻田 洋子

【目的】

ミキ調剤薬局には栄養士が常駐しており、食品に関する商品選定・販売推移などについて定期的に薬剤師と検討する機会を設けている。

当薬局はオフィスビルの中にある為上階のテナント勤務者など処方箋を持たない方の来局も多く、物販分野ではそういった広い客層に対応しなければならない。今回は待合室でのアンケート実施に基づいた商品選定を行い、お客様のニーズを把握すると共に薬剤師・栄養士間の連携の一層の強化を図ることを目的とした。

【方法】

- ①お客様に5～8月の間に食事と栄養に関するアンケートを実施。普段の食生活において「どのような食材を意識して多く摂っているか」という項目を設定し回答して頂いた。
- ②そのアンケート結果を参考に多職種間で検討・選定し商品を新たに採用した。9月からの一ヶ月、店舗で販売促進を行い、動向をモニタリング、お客様の商品購入理由を伺った。

【結果】

- ①お客様103人に向けたアンケートでは（アンケート回答期間5月～8月）「どのような食材を多く摂っているか」という質問において「野菜」「豆腐・豆乳などの豆製品」「ヨーグルト・乳酸菌飲料」の三項目が上位を占めた。
- ②それに関する商品を9月より新規採用した。
また現在取扱いのある商品についても売り上げと購入理由をお聞きし、食品の販売に関する情報収集を行った。
→アンケートに基づいた新規商品の導入を行った所、すべての商品において売り上げを出すことが出来た。詳細な販売推移に関しては現在(9/28時点)集計中である。

【考察】

今回の待合室アンケートの実施によってお客様の興味・関心を把握する事が出来た。それを踏まえて商品選定を行った事が、売り上げへ貢献したと思われる。
また、本研究を通して薬剤師・栄養士間での更なる連携強化の糸口を発見する事が出来た。今後とも積極的に多職種間での検討を行うことで、お客様のニーズに応えていけるものとする。